

低温に対する農作物の管理について

令和5年4月7日
農業技術課

気象台の予報では4月9日及び10日の最低気温が甲府で5℃（3℃～6℃）となっており、低温による影響が心配されます。今後の気象情報に注意し、農作物の管理を徹底して下さい。

山梨県の天気予報（7日先まで）									
2023年04月07日11時 甲府地方気象台 発表									
日付	今日 07日(金)	明日 08日(土)	明後日 09日(日)	10日(月)	11日(火)	12日(水)	13日(木)	14日(金)	
山梨県	雨時々止む 	曇時々晴 	晴時々曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	曇 	晴時々曇 	晴時々曇 	
降水確率(%)	-/-/70/60	10/10/20/20	10	10	10	40	20	20	
信頼度	-	-	-	A	A	B	A	A	
甲府 気温 (℃)	最高	22	21	20 (18~23)	22 (20~25)	23 (21~26)	23 (21~26)	23 (20~25)	23 (20~26)
	最低	-	11	5 (3~6)	5 (3~6)	7 (5~10)	11 (9~13)	7 (5~9)	6 (4~9)
向こう一週間（明日から7日先まで）の平年値									
				降水量の7日間合計		最低気温		最高気温	
甲府				平年並 7 - 27mm		7.6℃		20.0℃	

<果樹>

○事前対策

- ・ほ場の乾燥は凍霜害を助長するため、樹体の水分確保とあわせ十分なかん水を行う。
- ・凍霜害の常習地域や生育が進み被害の発生が心配される場合は、摘花や摘果を遅らせ、摘果による着果数の決定は凍霜害の危険がなくなった時期に行う。
- ・オウトウ等の雨よけ施設では、ビニール被覆により降霜を防止する。
- ・ブドウのホース栽培では、展葉始め以降は低温（凍霜害）を受けやすくなるので、早めにホースを除去する。

○事後対策

- ・低温（凍霜害）を受けた園では、下向きの花を中心に受粉回数を増やし、花びらが落ち終わるまで、丁寧な人工受粉を行う。
- ・幼果期に低温を受けると、奇形果やサビ果、生理落果が発生するので、早期からの強い摘果は行わない。
- ・モモの双胚果は、開花～結実期に気温が低い年に発生が増えるので、低温に遭遇した地域では、早期の強い摘果は行わない。

<野菜>

- 無加温ハウス栽培（スイートコーン等）

- ・外気温が -1°C 以下になると予想された場合、ハウス内を多層（2～3層）被覆するとともに、状況によっては簡易ストーブ等を使って保温する。

○トンネル栽培、露地野菜（スイートコーン、レタス等）

- ・低温が予想される場合は、さらに保温効果の高い被覆資材（シルバーシート、不織布等）を利用し保温に努める。
- ・スイートコーンのトンネル栽培では、軟弱徒長しないよう日頃からトンネルの換気に注意する。

< 茶 >

○降霜が予想される場合は、以下の方法で寒冷紗等により被覆を行う。

- ・棚がけは、被覆資材を株面より60～90cm離して被覆する。被覆資材は光線透過率が40～50%のものを用品、日中は開けておく。
- ・トンネルがけでは、被覆資材を株面より40cmの高さに被覆する。被覆資材は光線透過率が50～90%の不織布を用いる。